

KDrasterコンバート

(ベクター/ラスター変換)



Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

HPxRS
HPxRSC

本社：パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL : 045-442-0500 FAX : 045-442-0501
URL : <https://www.kernelcomputer.co.jp>

特 長

- HPGL からラスターデータへ変換します。
- コマンドラインから入出力ファイル名をキーインする事で実行されます。(標準入出力が利用可能)
- 実行時各入出力フォーマットの属性パラメータやオプションパラメータを設定できます。
- スケール、回転、原点移動、センタリングなどの処理が可能。
- Windows の True Type Font 名を指定して、文字パターン生成が可能。使用可能な True Type Font 名は D F P P O P 体、D F P P O P 体、Arial、Times New Roman、MS P ゴシック、MS P 明朝、MS ゴシック、MS 明朝、MS UI Gothic となります。
- フォルダ毎の一括変換が可能
- 文字コードは、JIS ASCII、半角カタカナ、漢字のみの対応となります。

動 作 環 境

機 種	OS
UNIX	Solaris9 以降(SPARC) / HP-UX11i V2 以降 / AIX6.1 以降
Windows	10 / Server 2016 / Server 2019 / 11 / Server 2022 / Server 2025
LINUX	RHEL4 以降あるいはそれに相当するカーネル 2.6 以降の x86/x64 系 Linux

製品一覧

製品名	製品仕様	標準価格 (税抜き)
H P 2 R S	AO 対応版(AO/600DPI) (JIS 第1水準漢字対応)	35 万円
H P 3 R S	長尺対応版(6AO/3000DPI) ※1 (JIS 第1水準漢字対応)	45 万円
H P 2 R S C	AO 対応版(AO/600DPI) モノクロ・カラー併用版 (JIS 第1水準漢字対応)	50 万円
H P 3 R S C	長尺対応版(6AO/3000DPI) ※2 モノクロ・カラー併用版 (JIS 第1水準漢字対応)	60 万円

※1: 100mまで出力可能です。

※2: 10mまで出力可能です。

オプションソフト

製品名	製品概要	標準価格 (税抜き)
K D C O N V _ D I R (階層構造一括変換)	階層構造の各フォルダ内に散らばっている必要なファイルを拡張子で指定し、下層フォルダまで一括変換します。	15 万円
K D a u t o _ t r a n s (自動監視・自動出力)	監視フォルダへ入力データを格納する事で自動的にデータ変換を行います。変換結果は印刷、ファイル転送、指定した別のフォルダへのファイル出力ができます。	20 万円
JIS 第2水準ベクターフォント	JIS 第2水準フォントファイルです。文字を線分化する際に使用します。	30 万円

操作方法

HP2RS, HP3RS, HP2RSC, HP3RSC は、コマンドラインアプリケーションです。通常のコマンドと同じようにコマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込む事ができます。Windows の場合は、「コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。変換時にオプションを指定したり、属性データ変換パラメータファイルの内容を変更する事で様々な変換処理が可能となります。

HPGL からラスターデータに変換するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

実行モジュール 入力ファイル -0 出力ファイル -各オプション

【操作例】

HPxRS を使用して HP-GL ファイル「sample.hp」を TIFF ファイル「sample.tif」に変換する場合は以下のように入力して変換します。

A> HPxRS sample.hp -0sample.tif -Zrasl_out.atr
ただいま、ファイル変換中です。

HPxRS 変換終了

HPxRS	:実行モジュール名(例: HP2RS)
sample.hp	:入力ファイル名
sample.tif	:出力ファイル名
rasl_out.atr	:出力属性ファイル名
-0	:変換結果を出力するファイル名を指定するオプション。 マイナス記号とアルファベットの「オー」です。
	-0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。 変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定する事はできません。

※ オプション指定は大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。

※ オプションの詳細についてはオプションの項目を参照下さい。

※ HPxRSC も同様。

オプション

- A : 指定した出力サイズに収まるような最大サイズに、縦横比を維持してスケーリングします。
- AJ : 指定した出力サイズより大きい場合のみ、そのサイズに収まるように、図面を縮小して出力します。
- AL : 用紙サイズに合わせてセンタリングを行います。
- M : ラスター出力が TIFF, FX_RASTER, IOCA の場合に前のラスター出力に重ねて(次のページ)に出力されます。(HP2RSC, HP3RSC の場合は TIFF のみ)
- MFILE : 入力がマルチページファイルの場合、ページ毎に分割して出力します。各出力ファイル名は、指定した出力ファイル名に番号を付加したものになります。
- ＜出力例＞**
HP2RS Sample.hp -OSample.tif -MFILE と入力した場合
Sample_1.tif, Smaple_2.tif, Sample_3.tif…… と出力されます。
- P[paper] : 用紙サイズを番号で指定します。(0:A0 1:A1 2:A2 3:A3 4:A4 など)
- LS : 用紙サイズが A0 版を超える場合に指定します。
実際の指示は-P オプションによって行います。(HP2RS, HP2RSC のみ)
- LD : 出力解像度が 600DPI を超える場合に指定します。
実際の指示は出力属性パラメータ (OUT_RESOLUTION) で行います。
(HP2RS, HP2RSC のみ)
- TR : 線分の重なり部分の出力を透過モードに指定(HP2RSC, HP3RSC のみ)
- CMAP : フルカラーをインデックスカラーに変換します。(-TR パラメータ設定時に有効)
- MONO : カラー出力でなく、モノクロ(2 値)に変換します。(HP2RSC, HP3RSC のみ)
- R[rotation] : 出力時 90, 180, 270 度回転します。(反時計方向)
- S[scale] : スケール値を指定します。
- X[xoff] : 水平方向のオフセット量を、mm 単位の値で指定します。
- Y[yoff] : 垂直方向のオフセット量を、mm 単位の値で指定します。

-BATCH[batch_file] : バッチファイル名
指定されたファイル又はディレクトリ内のファイルを一括処理したいときに利用します。

〈使用方法〉
HPxRS -BATCH バッチファイル名

〈バッチファイルの指定方法〉
バッチファイルの指定方法は下記の通り

入力ファイル -0 出力ファイル [オプションパラメータ]

〈操作例〉

(1) 1つのファイルを違うパラメータで違うファイル名で変換します。

TEST.DATA -0TEST_1.dt
TEST.DATA -0TEST_2.dt -R90

(2) 拡張子.data のファイルを拡張子.dt のファイルに変換します。

(ファイル名は自動的に検索されます)
.data -0.dt

(3) ディレクトリ(DIR_A)の中の拡張子.data のファイルを違うディレクトリ(DIR_B)の中の拡張子.dt のファイルに変換します。(ファイル名は自動的に検索されます)

DIR_A/*.data -0DIR_B/*.dt -R90 UNIX 系
DIR_A¥*.data -0DIR_B¥*.dt -R90 Windows 系

(4) 複数ファイルを1つのマルチページ(test.dt)ファイルに変換します。

(マルチページ出力可能なフォーマットのみ有効)
*.data -0test.dt -M

〈制限事項〉

- ①バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は最大255文字までです。
- ②ファイルでワイルドカードを使用する場合は、必ず拡張子を指定して下さい。
- ③出力コマンドは指定されたコマンドの後に出力ファイル名を附加して実行します。
内容についてはシステムによって違いますので弊社では責任を問いません。
- ④ワイルドカードで指定した場合の処理されるファイルの順番はアルファベット順で処理されます。
- ⑤漢字のファイル名はWindows版のみ有効になります。
- ⑥スペースを含むファイル名の指定はできません。

〈バッチファイル作成上の注意〉

- ①バッチファイル内の項目は半角英数字で作成して下さい。
- ②バッチファイルはテキストファイルで作成して下さい。

〈作成例〉

Microsoft Wordで作成する場合は『テキスト改行』でファイルを保存して下さい。

他のテキストエディタ(メモ帳等)を使用して作成して下さい。

- ③ファイル名の文字数についての制限はシステムに依存します。

属性データ変換パラメータファイル

属性データ変換パラメータファイルには、初期状態では
HP-GL 入力データ用 hpgl_in.atr
ラスター出力データ用 rasl_out.atr
ラスター出力データ用 rascl_out.atr (HP2RSC, HP3RSC のみ)
があり、この内容を変更する事で種々な変換が可能となります。

■入力属性データ変換パラメータ

IN_VERSION	: 入力データフォーマットを変更
IN_SYMWD, INSYMHT	: 入力データの文字高さ、文字幅を倍尺で指定
PENCOLOR	: 入力データのペン番号と色番号を変更
WINDOWS_FONT	: 文字を WINDOWS (TrueType) フォント (MS 明朝や MS ゴシックなど) に 応じた輪郭と塗りで出力
WINDOWS_FONT_HT	: WINDOWS フォントの高さを入力データの文字高に対して調整 ※
WINDOWS_FONT_WD	: WINDOWS フォントの幅を入力データの文字幅に対して調整 ※
WINDOWS_FONT_SP	: 文字と文字の間隔を任意に指定 ※

※WINDOWS_FONT パラメータ入力時のみ有効

・HPGL 入力データ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (hpgl_in.atr)

```
#####
#HP plotter model no. (HP7475A, HP7550A, HP7580X (HP7580A, HP7585A))
#          HP7590X (HP7595X, HP7596X)
#IN_VERSION=HP7475A
#IN_VERSION=HP7550A
IN_VERSION=HP7580X
#IN_VERSION=HP7590X
#pen & line_color table
PENCOLOR=(P1=1, P2=2, P3=3, P4=4, P5=5, P6=6, P7=7, P8=8)
#symbol_height_scale
IN_SYMHT = 1.0
#symbol_width_scale
IN_SYMWD = 1.0
#pen & layer table (DXF_OUT, IGES_OUT)
PENLAYER=(P1=L1, P2=L2, P3=L3, P4=L4, P5=L5, P6=L6, P7=L7, P8=L8)
# paper feed (Y:yes , N:no) for SP0; or SP; command
SP_PAPERFEED = N
# coordinates origin point (0:ignore(Default) , 1:available)
#GENTEN_MODE = 1
# true Type Font (Font_name, Height_scale, Width_scale, moji_space)
#WINDOWS_FONT=MS 明朝
#WINDOWS_FONT_HT=1.0
#WINDOWS_FONT_WD=1.3
#WINDOWS_FONT_SP=0.5
#####
#end hpgl_in.atr#####

```

■出力属性データ変換パラメータ

OUT_VERSION	： 出力データフォーマットを変更
COLORWIDTH	： 出力データの色番号(ペン番号)と線幅を変更
OUT_RESOLUTION	： 出力データの解像度を変更
OUTPUT_SIZE_X(Y)	： 出力データの出力範囲を変更
CUT_SPAC_AREA	： 自動スケール時、片軸の余白カットの設定
COLORRGB	： カラー出力(OUT_VERSION=FX_RASTERのみ可能)の設定 (HP3RSの場合) カラー出力の色変更 (HP2RSC, HP3RSCの場合)
SYMBOL_LINEWIDTH	： 入力データの中の文字描画の線幅の変更
A_PAPER_OUT	： 出力データをA系列の用紙サイズに設定
OUTPUT_DOT_X(Y)	： 出力サイズをドット指定
COLOR_YUSEN	： 重なった図形の出力順番を指定 ※2
PAPER_SCALE	： 長尺用紙のスケールと回転の自動処理のON・OFF設定 ※1
XX_OUT_SIZE_X(Y)	： 自動処理のスケールの設定 ※1 ※3
XX_OUT_ROTATE	： 自動処理の回転の設定 ※1 ※3

※1 HP3RS, HP3RSCのみ設定可能。

※2 HP2RSC, HP3RSCのみ設定可能。

※3 XXは用紙サイズ。(例1: A0_OUT_SIZE_X, 例2: A1_OUT_ROTATE)

・出カラスターデータ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (rasl_out.atr)

```
#####rasl_out.atr#####
# format type (TIFF, SUN_RASTER, XWD, MMR, MR, MH, CALSG4, BMP etc.)
#OUT_VERSION=TIFF_NON
#OUT_VERSION=TIFF_PACK
#OUT_VERSION=TIFF_G31D
#OUT_VERSION=TIFF_G3_MH
#OUT_VERSION=TIFF_G3_MR
OUT_VERSION=TIFF_G4
#OUT_VERSION=SUN_RASTER
#OUT_VERSION=SUN_MMR
#OUT_VERSION=XWD
#OUT_VERSION=MMR
#OUT_VERSION=MR
#OUT_VERSION=MH
#OUT_VERSION=CALSG4
#OUT_VERSION=IOCA_IBMMMR
#OUT_VERSION=IOCA_NON
#OUT_VERSION=IOCA_G4MMR
#OUT_VERSION=BMP
#OUT_VERSION=MIEL
#OUT_VERSION=FX_RASTER
#OUT_VERSION=HPRTL_ROW
#OUT_VERSION=HPRTL_NON
#OUT_VERSION=HPRTL_PACK
#OUT_VERSION=HPRTL_MH
#OUT_VERSION=HPRTL_MR
#OUT_VERSION=HPRTL_MMR
#symbol height_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMHT=1.0
# symbol width_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMWID=1.0
# symbol space (unit:mm) (0.0 --> 99.99)
OUT_SYMSP=0.0
#line type pattern set(pattern_length * scale_factor) (unit:mm)
#DOT_LINE = 1.0, 1.0
#DASH_LINE = 2.0, 1.0
#CENTER_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
#DIVIDE_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
# color/width cross conversion table (max 256 tables)
COLORWIDTH=(C0=0.1, C1=0.1, C2=0.2, C3=0.3, C4=0.4, C5=0.5, C6=0.3, C7=0.7, C8=0.8)
```

```

#COLORWIDTH=(C1=0.01, C2=0.01, C3=0.01, C4=0.01, C5=0.01, C6=0.01, C7=0.01, C8=0.01)
#COLORWIDTH=(C9=0.1, C10=0.1, C11=0.1, C12=0.2, C13=0.3, C14=0.4, C15=0.5, C16=0.6)
#COLORWIDTH=(C1=0.1, C2=0.1, C3=0.1, C4=0.1, C5=0.35, C6=0.35, C7=0.35, C8=0.35)
#COLORWIDTH=(C1=0.01, C2=0.01, C3=0.01, C4=0.01, C5=0.01, C6=0.01, C7=0.01, C8=0.01)
#COLORWIDTH=(C128=0.01, C254=0.01, C255=0.01)
# all vector (without symbol) linewidth fat(default:0.0)
#ALL_LINEWD_FAT = 0.0
# Lower 200DPI linewidth fat(use FAX) (default:0.0)
#200DPI_LINEWD_FAT = 0.0
#symbol line_width(unit:mm) (0.0 --> 20.0mm)
SYMBOL_LINEWIDTH = 0.01
# output size (unit:mm) (0.01 --> 1189.0*6)
#OUTPUT_SIZE_X = 1000.0
#OUTPUT_SIZE_Y = 596.0
# output resolution (unit:DPI) (72 --> 600)
OUT_RESOLUTION = 400
# raster working memory (unit:Mbytes)
BUNDLE_MEMORY = 20.0
#BUNDLE_MEMORY = 10.0
# output device scale (0.9 --> 1.1)
DEVICE_SCALE = 1.0
# auto offset & auto paper_size margin(unit:mm) : used -g option
AUTO_OFFSET_X = 5.0
AUTO_OFFSET_Y = 5.0
# filling mode on(1)/off(0)
FILL_MODE = 1
# paper margin (unit:mm) (default:0.0) (0.0 --> 999.99)
PAPER_MARGIN_X = 5.0
PAPER_MARGIN_Y = 5.0
# dashline cap (0:cut , 1:circle(default) , 2:square)
#DASHLINE_CAP = 0
# TIFF byte order (default:MPU depend , motorola:M , intel:I)
#TIFF_BYTERDER=I
#TIFF_BYTERDER=M
# if -a(-aj) on , space_area (0:no cut(default) , 1:cut)
#CUT_SPACE_AREA = 1
# output paper_size overflow limits(unit:mm) (0-->100 (default:5)) (-aj option on)
PAPER_X_LIMITS = 10.0
PAPER_Y_LIMITS = 10.0
# dashline pattern down/up ratio(10%-->900%)
#DASH_DOWN_RATIO = 100
#DASH_UP_RATIO = 100
# color rgb table (red,green,blue) (0-->1000)
# black:0,0,0 red:1000,0,0 white:1000,1000,1000
#COLORRGB=(C0=0, 0, 0, C1=0, 0, 0, C2=1000, 0, 0, C3=1000, 1000, 1000, C4=0, 0, 0, C5=1000, 0, 0)
#COLORRGB=(C6=0, 0, 0, C7=1000, 0, 0, C8=1000, 1000, 1000, C9=0, 0, 0, C10=1000, 0, 0)
# merge fill logic(0:OR(default) , 1:REPLACE, 2:XOR, 3:AND)
#MERGE_LOGIC = 0
# hatch pattern bit(0:8x8, 1:16x16, 2:32x32(default))
#HATCH_PATBIT = 2
# output area size expand(only -g) (0.0-->100.0mm) (default:0.0)
#OUTAREA_UP_X = 0.5
#OUTAREA_UP_Y = 0.5
# 1dot control(0:1_dot , 1:depend on line_width(default))
#SAME_PT_DOT = 0
# A_series paper out(-g option) (Y:yes, N:no (input_size) (Default))
#A_PAPER_OUT = Y
# width byte boundary(0:off (default) , byte_bound(1, 2, 4))
BYTE_BOUNDARY_X = 1
# height byte boundary(0:off (default) , byte_bound(1, 2, 4))
#BYTE_BOUNDARY_Y = 1
##### LONG_PAPER RASTER #####
# paper_scale (0:off (default) , 1:on(-aj)&clip off, 2:on(-aj)&clip on
#           10:on(not adjust scale(-aj off))&clip on)
#           11:on(not adjust scale(-aj off))&clip on&scale=1.0

```

```

#           12:on(not adjust scale(-aj off))&clip off)
#           13:on(not adjust scale(-aj off))&clip off&scale=1.0
#PAPER_SCALE = 11
# paper_size (unit:mm) (A0 --> A4, AOL --> A4L)
# A0(1189,841), A1(841,594), A2(594,420), A3(420,297), A4(297,210)
A0_OUTSIZE_X = 1189
A0_OUTSIZE_Y = 841
A1_OUTSIZE_X = 841
A1_OUTSIZE_Y = 594
A2_OUTSIZE_X = 594
A2_OUTSIZE_Y = 420
A3_OUTSIZE_X = 420
A3_OUTSIZE_Y = 297
A4_OUTSIZE_X = 297
A4_OUTSIZE_Y = 210
A4L_OUTSIZE_X = 210
#A0L_OUTSIZE_X = 2378
#A0L_OUTSIZE_X = 1682
A0L_OUTSIZE_Y = 841
A1L_OUTSIZE_X = 5945
A1L_OUTSIZE_Y = 594
A2L_OUTSIZE_X = 4756
A2L_OUTSIZE_Y = 420
A3L_OUTSIZE_X = 3567
A3L_OUTSIZE_Y = 297
A4L_OUTSIZE_X = 2378
A4L_OUTSIZE_Y = 210
# paper_margin (unit:mm(default:0)) (A0 --> A4, AOL --> A4L)
A0_PAPER_MARGIN = 5
A1_PAPER_MARGIN = 5
A2_PAPER_MARGIN = 5
A3_PAPER_MARGIN = 5
A4_PAPER_MARGIN = 5
A0L_PAPER_MARGIN = 5
A1L_PAPER_MARGIN = 5
A2L_PAPER_MARGIN = 5
A3L_PAPER_MARGIN = 5
A4L_PAPER_MARGIN = 5
# paper_rotation(unit:degree(default:0)) (0, 90, 180, 270 (CCW))
A0_ROTATE = 0
A1_ROTATE = 0
A2_ROTATE = 0
A3_ROTATE = 0
A4_ROTATE = 0
A0L_ROTATE = 0
A1L_ROTATE = 0
A2L_ROTATE = 0
A3L_ROTATE = 0
A4L_ROTATE = 0
#####
#####end rasl_out.atr#####

```

・出カラスターデータ用データ変換属性パラメータファイルのサンプル (rascl_out.atr)

```
#####
# rascl_out.atr #####
# output version (TIFF, NO_COMPRESS, SUN_RASTER, XWD, BMP)
#OUT_VERSION=TIFF_NON
OUT_VERSION=TIFF_PACK
#OUT_VERSION=SUN_RASTER
#OUT_VERSION=NO_COMPRESS
#OUT_VERSION=XWD
#OUT_VERSION=BMP
#OUT_VERSION=PNG
#OUT_VERSION=JPEG
#OUT_VERSION=HPRTL_ROW
#OUT_VERSION=HPRTL_NON
#OUT_VERSION=HPRTL_PACK
# JPEG quality (0:worst --> 75:default --> 100:best)
#JPEG_QUALITY = 75
# JPEG progressive (Y/N) (default:N)
#JPEG_PROG = N
#symbol height_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMHT=1.0
# symbol width_scale (0.01 --> 99.99)
OUT_SYMWD=1.0
# symbol space (unit:mm) (0.0 --> 99.99)
OUT_SYmsp=0.0
#line type pattern set(pattern_length * scale_factor) (unit:mm)
#DOT_LINE = 1.0, 1.0
#DASH_LINE = 2.0, 1.0
#CENTER_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
#DIVIDE_LINE = 10.0, 1.0, 1.0
# color/width cross conversion table (max 256 tables)
COLORWIDTH=(C0=0.1, C1=0.1, C2=0.2, C3=0.3, C4=0.4, C5=0.5, C6=0.3, C7=0.7, C8=0.8)
#COLORWIDTH=(C1=0.01, C2=0.01, C3=0.01, C4=0.01, C5=0.01, C6=0.01, C7=0.01, C8=0.01)
#COLORWIDTH=(C9=0.1, C10=0.1, C11=0.1, C12=0.2, C13=0.3, C14=0.4, C15=0.5, C16=0.6)
#COLORWIDTH=(C1=0.1, C2=0.1, C3=0.1, C4=0.1, C5=0.35, C6=0.35, C7=0.35, C8=0.35)
#COLORWIDTH=(C1=0.01, C2=0.01, C3=0.01, C4=0.01, C5=0.01, C6=0.01, C7=0.01, C8=0.01)
#COLORWIDTH=(C128=0.01, C254=0.01, C255=0.01)
# all vector (without symbol) linewidth fat(default:0.0)
#ALL_LINEWD_FAT = 0.0
# Lower 200DPI linewidth fat(use FAX) (default:0.0)
#200DPI_LINEWD_FAT = 0.0
#symbol line_width(unit:mm) (0.0 --> 20.0mm)
SYMBOL_LINEWIDTH = 0.01
# output size (unit:mm) (0.01 --> 1189.0*6)
#OUTPUT_SIZE_X = 1000.0
#OUTPUT_SIZE_Y = 596.0
# output resolution (unit:DPI) (72 --> 600)
OUT_RESOLUTION = 400
# raster working memory (unit:Mbytes)
BUNDLE_MEMORY = 20.0
#BUNDLE_MEMORY = 10.0
# output device scale (0.9 --> 1.1)
DEVICE_SCALE = 1.0
# auto offset & auto paper_size margin(unit:mm) : used -g option
AUTO_OFFSET_X = 5.0
AUTO_OFFSET_Y = 5.0
# filling mode on(1)/off(0)
FILL_MODE = 1
```

```

# paper margin (unit:mm) (default:0.0) (0.0 --> 999.99)
PAPER_MARGIN_X = 5.0
PAPER_MARGIN_Y = 5.0
# dashline cap (0:cut , 1:circle(default) , 2:square)
#DASHLINE_CAP = 0
# TIFF byte order (default:MPU depend , motorola:M , intel:I)
#TIFF_BYTEORDER=I
#TIFF_BYTEORDER=M
# if -a(-aj) on , space_area (0:no cut(default) , 1:cut)
#CUT_SPACE_AREA = 1
# output paper_size overflow limits(unit:mm) (0-->100(default:5)) (-aj option on)
PAPER_X_LIMITS = 10.0
PAPER_Y_LIMITS = 10.0
# dashline pattern down/up ratio(10%-->900%)
#DASH_DOWN_RATIO = 100
#DASH_UP_RATIO = 100
# color rgb table (red, green, blue) (0-->1000)
# black:0,0,0 red:1000,0,0 white:1000,1000,1000
COLORRGB=(C0=0, 0, 0, C1=0, 0, 0, C2=1000, 0, 0, C3=1000, 1000, 1000, C4=0, 0, 0, C5=1000, 0, 0)
COLORRGB=(C6=0, 0, 0, C7=1000, 0, 0, C8=1000, 1000, 1000, C9=0, 0, 0, C10=1000, 0, 0)
# merge fill logic(0:OR(default), 1:REPLACE, 2:XOR, 3:AND)
#MERGE_LOGIC = 0
# hatch pattern bit(0:8x8, 1:16x16, 2:32x32(default))
#HATCH_PATBIT = 2
# output area size expand(only -g) (0.0-->100.0mm) (default:0.0)
#OUTAREA_UP_X = 0.5
#OUTAREA_UP_Y = 0.5
# 1dot control(0:1_dot , 1:depend on line_width(default))
#SAME_PT_DOT = 0
# A_series paper out(-g option) (Y:yes, N:no (input_size) (Default))
#A_PAPER_OUT = Y
# width byte boundary(0:off(default), byte_bound(1, 2, 4))
BYTE_BOUNDARY_X = 1
# height byte boundary(0:off(default), byte_bound(1, 2, 4))
#BYTE_BOUNDARY_Y = 1
##### LONG_PAPER RASTER #####
# paper_scale (0:off(default), 1:on(-aj)&clip off, 2:on(-aj)&clip on
#               10:on(not adjust scale(-aj off))&clip on)
#               11:on(not adjust scale(-aj off))&clip on&scale=1.0
#               12:on(not adjust scale(-aj off))&clip off)
#               13:on(not adjust scale(-aj off))&clip off&scale=1.0)
#PAPER_SCALE = 10
#PAPER_SCALE = 2
#PAPER_SCALE = 1
# paper_size (unit:mm) (A0 --> A4, A0L --> A4L)
# A0(1189,841), A1(841,594), A2(594,420), A3(420,297), A4(297,210)
A0_OUTSIZE_X = 1189
A0_OUTSIZE_Y = 841
A1_OUTSIZE_X = 841
A1_OUTSIZE_Y = 594
A2_OUTSIZE_X = 594
A2_OUTSIZE_Y = 420
A3_OUTSIZE_X = 420
A3_OUTSIZE_Y = 297
#A3_OUTSIZE_X = 594
#A3_OUTSIZE_Y = 420
#A3_OUTSIZE_X = 297
#A3_OUTSIZE_Y = 210
A4_OUTSIZE_X = 297

```

```

A4_OUTSIZE_Y = 210
A0L_OUTSIZE_X = 7134
#A0L_OUTSIZE_X = 2378
#A0L_OUTSIZE_X = 1682
A0L_OUTSIZE_Y = 841
A1L_OUTSIZE_X = 5945
A1L_OUTSIZE_Y = 594
A2L_OUTSIZE_X = 4756
A2L_OUTSIZE_Y = 420
A3L_OUTSIZE_X = 3567
A3L_OUTSIZE_Y = 297
A4L_OUTSIZE_X = 2378
A4L_OUTSIZE_Y = 210
# paper_margin (unit:mm(default:0)) (A0 --> A4, A0L --> A4L)
A0_PAPER_MARGIN = 5
A1_PAPER_MARGIN = 5
A2_PAPER_MARGIN = 5
A3_PAPER_MARGIN = 5
A4_PAPER_MARGIN = 5
A0L_PAPER_MARGIN = 5
A1L_PAPER_MARGIN = 5
A2L_PAPER_MARGIN = 5
A3L_PAPER_MARGIN = 5
A4L_PAPER_MARGIN = 5
# paper_rotation(unit:degree(default:0)) (0, 90, 180, 270 (CCW))
A0_ROTATE = 0
A1_ROTATE = 0
A2_ROTATE = 0
A3_ROTATE = 0
A4_ROTATE = 0
A0L_ROTATE = 0
A1L_ROTATE = 0
A2L_ROTATE = 0
A3L_ROTATE = 0
A4L_ROTATE = 0
# color yusen
# group_no. (1-16), group_item(color_no:1-256, T:text, *:others)
#COLOR_YUSEN = 1, 1-256
#COLOR_YUSEN = 1, 12-16
COLOR_YUSEN = 1, *
COLOR_YUSEN = 2, 1
COLOR_YUSEN = 3, 3
COLOR_YUSEN = 4, 11
COLOR_YUSEN = 5, 5
#COLOR_YUSEN = 6, T
#####
#####end rascl_out. atr#####

```

サンプル例

操作例1 (hpdt ファイルを入力データの大きさで、第一象限に平行移動し、出力ファイル名「hpdt.dat」で出力)

```
A>HP2RS hpdt -0hpdt.dat -G  
HP-GL -> RASTER ファイル コンバータ  
ただいま、ファイル変換中です。  
入力データの範囲 (単位:mm)  
Xmin=xxx Ymin=xxx Xmax=xxx Ymax=xxx  
出力データの範囲 (単位:mm)  
Xmin=xxx Ymin=xxx Xmax=xxx Ymax=xxx  
ベクター/ラスター変換処理 xx%終了  
HP2RS 変換終了
```

操作例2 (hpdt ファイルを出力ファイル名「hpdt.dat」にし、スケール2倍で短軸がA0の縦方向、長軸がA0横方向の2倍のサイズ内に自動スケールされて出力)

```
A>HP3RS hpdt -0hpdt.dat -S2.0 -A -P101  
HP-GL -> RASTER ファイル コンバータ  
ただいま、ファイル変換中です。  
ベクター/ラスター変換処理 xx%終了  
HP3RS 変換終了
```

操作例3 (hpgl ファイルを入力データの大きさで、第一象限に平行移動し、線分の重なり部分は透過モード(インデックスカラー)で、出力ファイル名「hpdt.dat」にて出力)※HPxRSCのみ

```
A>HP2RSC hpdt -0hpdt.dat -G -TR - CMAP  
HP-GL -> RASTER ファイル コンバータ  
ただいま、ファイル変換中です。  
入力データの範囲 (単位:mm)  
min=xxx Ymin=xxx Xmax=xxx Ymax=xxx  
出力データの範囲 (単位:mm)  
Xmin=xxx Ymin=xxx Xmax=xxx Ymax=xxx  
ベクター/ラスター変換処理 xx%終了  
HP2RSC 変換終了
```